

校

歌

野村俊夫 作詞
古関裕而 作曲

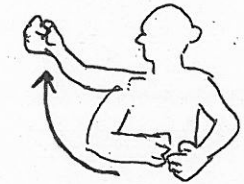
一

緑はてない

武蔵野の



上下に小さきみに動かしながら



腰から刀を抜く

自分から見る
力々力々の
しを空書



空に清しく

聳える富士を



さわやかな風を
自分にひき寄せる



2本指をのばして
山の形を空書

今日も仰いで

理想に燃えて



手の平を下にさげる



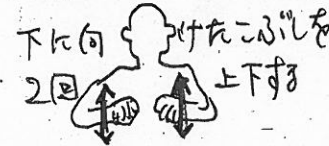
右手で丸をつり、
ななめ上へあげる



2本指を右上がり
左下にカーブさせて
「り」を空書



右耳から上へあげる



下に向けたふしを
2回上下

まな
とんと
い
師の訓え

手の甲を2回前へ
たおす。



親指を立てた
右手を左手のひたひ
むすあげる



右額から外へひたひ指
を2回ふる



右額へ外からひたひ指
を2回振り向ける

両手の平を上にして
胸からななめ上に
2回たげる



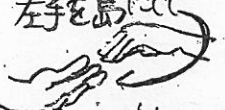
右手で2回ハクハク



鶴ヶ島

鳥のくちばしを刺

左手を島に



島中学校

右のひたひを上にして
水も表に半周



左手と右手で
「中」の字を表わす



手の甲を2回前へ
たおす。

みのり
ゆるたかな
ふるさとの

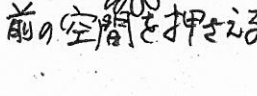


両手を広げながら
指を折る

親指とひし指で
四角をつくり腹が下がる



家の屋根を表す



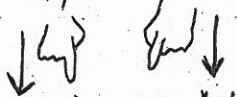
前の空間を押さえる

土に注いだ

右手で土をつまみ
もみおとすまね



汗のしづくを交互
たす



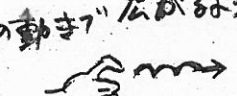
右、左と土をおけ

祖先の汗を

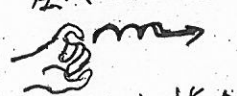
常に忘れず

撓まず
倦まず

汗が土にしみこみ
指の動きが広がる



曲げた親指を動かす
左へ ヒヨコ ヒヨコ



曲げた小指を動かす
左へ ヒヨコ ヒヨコ



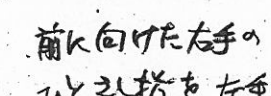
客員を左右の手の甲で交互にぬぐう



軽く丸めた右手を
開く



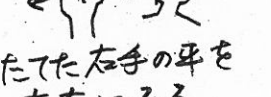
たてた右のひしを
左右にふる



前に向けた右手の
ひし指を左手で
手前に立てる

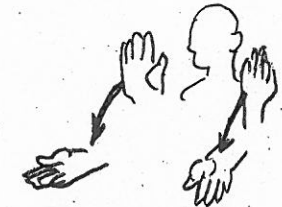


たてた右手の平を
左右にふる



励む務の

道一つ



顔のわきを立てた
ひしを前へたおす



手の甲を2回前へたおす



右ひし指をますぐ前へ出す

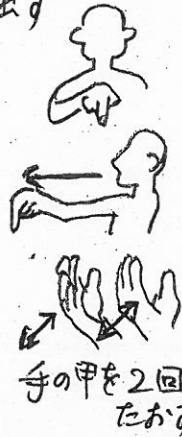
鶴ヶ島中学校

(二番に同じ)

(一番三回)

鶴ヶ島中学校

右ひざ指を下に
向けて胸の前に出す



手の甲を2回前へ
たおす。
両手の甲を上にして丸め
胸の前へ山なみを
表してゆらしながら出す



右3本指を上に向けて左へ
出し下におろす。

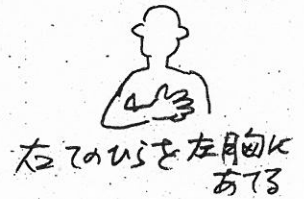
行こう学びの

幾山さんが

両手のてのひらを合わせて
上下にゆらす



右のひらを上に向けて
顔のわきからななめ上に
上げる



右のひらを左胸にあてる

友よ腕くみ

大志を抱いて

右のひらで"額を
左へなでる"
かこびを2回くぐる



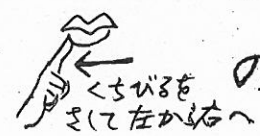
てのひらを少し丸めて
上に向け、
下から上へときめ
ときめに上に上げていく

若い血潮は
高鳴るものを

両手を右上へ
左下へ
おろす



2本指を立てて頭の
わきから1回外へ
はずませる



くちびるを
さして左か右へ

風の歌にも

紅の

の